

年度	科目名	課題領域	単位数		
2024年度	教育実践研究	学校での観察実習	1		
授業の目的	1. 学校現場において、外国につながる児童生徒の受入れ体制、日本語指導、JSL等、指導や支援の実際を観察する。 2. 観察を通して、外国につながる児童生徒の指導や支援の方法を考える。 ≪育む力：ケ〜ツ≫				
学修目標 (目標とする資質・能力)	・学校やその他の施設における観察や体験を通して、学級担任や教科担当の立場から、「外国につながる児童生徒の教育」に関する自らの課題を発見し、課題を設定（現職教員の場合には明確化）し、実践につなげることができる。				
各回の授業内容					
回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	11月上旬 日時未定	(90分)	観察実習の事前指導	学校現場での観察実習の前に、留意点や観察の観点等を学ぶ。	八幡（谷口）彩子、山城千秋、藤中隆久（教育学研究科教授）ほか
2	11月中旬 ～1月下旬 日時未定	(90分)	熊本市の日本語指導センター一校等における観察実習	熊本市の日本語指導センター校等での日本語指導と在籍学級での学びの様子を観察する。	引率教員（教育学研究科）、日本語指導センター校等の担当教員
3		(90分)			
4		(90分)			
5	※半日程度の観察実習に3回（9時間）参加	(90分)	熊本市の日本語指導拠点校等における観察実習	熊本市の日本語指導拠点校等における日本語指導と在籍学級での学びの様子を観察する	引率教員（教育学研究科）、日本語指導拠点校等の担当教員
6	2月中旬 日時未定	(90分)	熊本県の日本語教育拠点校等における観察実習	熊本県の日本語教育拠点校等における日本語指導と在籍学級での学びの様子を観察する。	引率教員（教育学研究科）、日本語教育拠点校等の担当教員
7		(90分)			
8	2月中旬 日時未定	(90分)	観察実習の事後指導	観察実習で得た成果を振り返り、気づきや成果を共有する。	八幡（谷口）彩子、山城千秋、藤中隆久（教育学研究科教授）ほか
履修条件		現職教員及び教員免許保有者（大学院生を含む）			
評価の方法		授業への参加、事後アンケート			
表中の≪育む力：ケ〜ツ≫の記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」に該当する。詳しくは、次の文献のpp. 5-10を参照。公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（ <a href="https://mo-mo-pro.com/report">https://mo-mo-pro.com/report</a> ）					